関西大学政治学研究部　後期勉強会β 班　第４回

アメリカ政治における権力の所在

～パワーエリート論と多元主義論～

11 月 13 日（金）

渡辺　顕誓

1.はじめに

アメリカ大統領は、世界でも認められる政治的リーダーであり、持つ権力も影響力も大きい。憲法上は、行政権がアメリカ大統領個人にあり、独断の政治決定することも可能ではある。一方、アメリカ憲法における第１条として、最も強調されているのは議会の立法府としての役割である。アメリカ政治とはこのような大統領と議会の「綱引き」であると言われている。

この中、アメリカは様々な集団がこれらに影響を与えているとする多元主義者とほかに、この大統領や議会をも動かす権力エリートたちが存在し、彼らは政治権力を持っていたり、それに影響力を持っているのだという理論も存在する（パワーエリート論）。今回の勉強会では、アメリカで権力を握っている諸集団を挙げながら、どの理論が当てはまるのかを考えていきたいと思う。

2.パワーエリート論

パワーエリート論とは、社会学者の C.W.ミルズによって始められた権力理論である。政治社会は少数の権力エリートと多数の大衆に分化。経済エリート（大企業）、軍事エリート（軍部）、政治エリート（官僚）という組織的なエリートが権力資源を利用し、国家の中枢を制御していると主張。エリートたちは互いに協力して複合体を形成する。

3.多元主義論

多元主義論とは、パワーエリート論に対抗する形で主張された理論である。アメリカの政治学者ロバート・ダールがその代表者となっている。エリート・大衆の権力分化はある程度あるとしても、パワーエリート論が主張する排他的な少数エリートの支配を退けて、政治的決定を行う権力が様々な集団に広く分散していることを主張する。

4.パワーエリート論と多元主義論による議論の水平線

・ダールのニューヘイブンにおける政治過程分析

・ルーカスによるダールの分析批判

5.権力エリートたち

5-1.ロビイスト

ロビイストとは、議員に対して自分の利益に沿った主張を通す者のことである。その活動は、あらゆる手を使ってその依頼主の団体の利益になるように、議員の政策の投票行動に影響を与えようとする。また、ロビイストを内部に抱えることも多く、組織自体がロビー活動をすることもある。

企業・マイクロソフトの例

利益団体・米国イスラエル広報委員会（AIPAC）の例

5-2.シンクタンク

シンクタンクとは、政策に関して研究し、代替案になりうる政策提言を行う政治的に中立な非営利団体（NPO）である。政府からの補助金や個人や企業などの寄付で成り立つ。（4 項の図を参照）

メロン家による寄付の例

6.おわりに

私は当初より権力エリートが存在するという前提のもと、パワーエリート論が成り立つという仮説を立てて勉強をすすめきた。確かに権力エリートが存在していたが、あくまでも個人や団体の利益や権力の追及をする者達であった。ミルズの言うような複合体の存在は認められなかった。つまり、アメリカは多元主義国家であるというのが私の結論である。

しかし、今回の発表に関しては、深く研究するという点で全くできていなかったと感じている。少ない参考文献に頼りすぎていた部分があり、もっと多くの参考文献を探すべきであった。今後も、日本との比較という点も含め、個人的に勉強していきたいと思う。

〇論点

・アメリカはエリート主義国（パワーエリート論）か多元主義国（多元主義論）か。

・日本はどうか（上記と同じく）。

・他にあれば提案ください（ぜひ）。

[参考文献]

・河田潤一著『現代政治学入門』（ミネルヴァ書房、2004 年）

・三輪祐範著『アメリカのパワーエリート』（筑摩書房、2003 年）

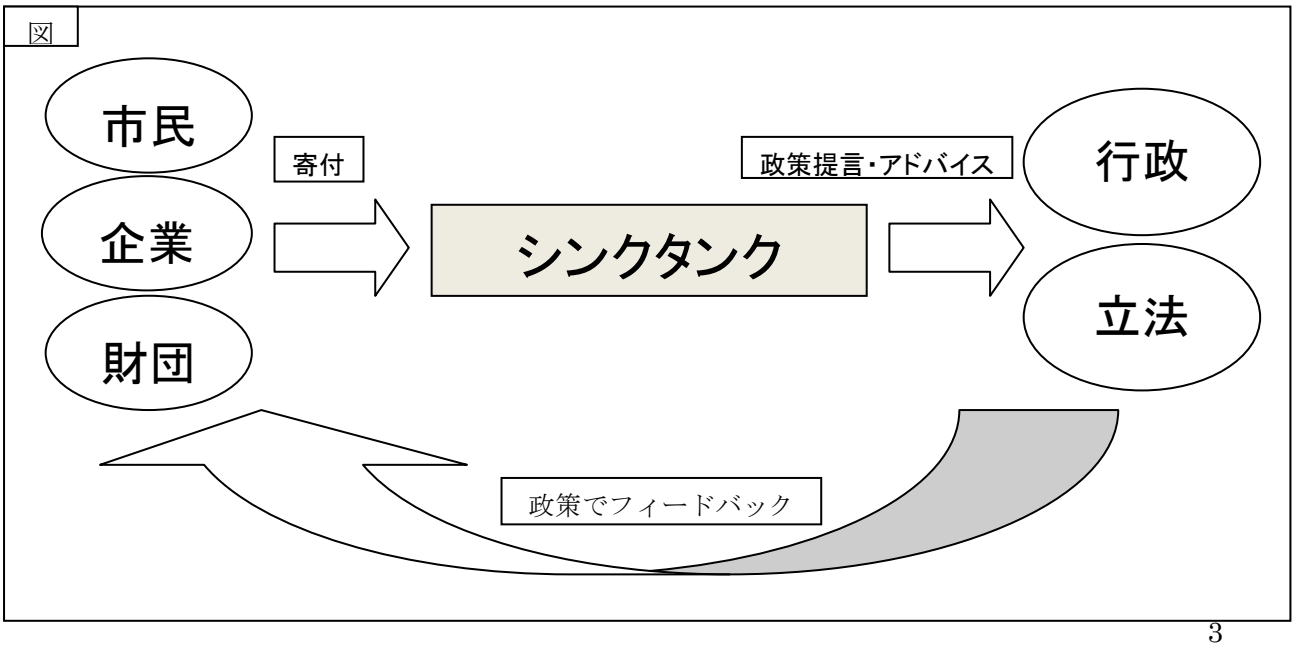
・横江公美『アメリカのシンクタンク：第５権力の実相』（ミネルヴァ書房、2008 年）

・中田康彦著『アメリカを支配するパワーエリート解体新書』（PHP 研究所、2009 年）

・ジョン・J・ミアシャイマー、スティーブン・M・ウォルト著、副島隆彦訳『イスラエル・ロビーとアメリカの外交政策1,2』（講談社、2007）

・田村浩志著『集いと語りのデモクラシー：リンゼイとダールの多元主義論』（勁草書房、2002 年）

[参考サイト]

・CENT JAPAN『マイクロソフト、ワシントンでロビー活動--気になるその費用は？』
http://japan.cnet.com/news/biz/story/0,2000056020,20367367,00.htm

・『政治過程論』
http://www011.upp.so-net.ne.jp/ayahp/seijikateiron.html